

開館50周年記念特別展

仮面芸能の系譜

—仮面芸能のふるさと奈良—

2023年

9月30日(土)～

11月12日(日)

前掲展中・9月30日(土)・10月12日(日)

後掲展中・10月20日(土)・11月12日(日)

主催会場 奈良県立美術館
 協賛 株式会社 新井田屋人形製作所
 企画協力 大倉組水部・岡本節夫・金谷穂高(元NHK)
 後援 奈良県庁・奈良県教育委員会
 奈良市庁舎
 奈良市立芸術文化センター
 奈良市立文化センター
 奈良市立市民会館
 奈良市立生涯学習センター
 奈良市立図書館



奈良県立美術館

■開館時間
9時～17時(入館は16時30分まで)

■休館日
10月2日(月)・10月10日(火)
10月16日(月)・10月23日(月)

■観覧料
一般：1,800(1,600)円
大・高生：1,600(1,400)円
中・小生：1,400(1,200)円
※コロナは団体料金(20人以上)

※次の方は会費中無料で観覧いただけます
 ・奈良県内各地の小・中学生および県内の小・中学校に在学する児童・生徒
 ・身体障がい・智力障がい・障害手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人
 ・外国人観光客、留学生

【ギャラリー展示の予定】

10月24日(火)～11月12日(日)

奈良に関する「文化の記録」と「記憶の継承」

奈良県立大学地域創造研究センター

特任教授 山田 修

入場無料

奈良県立美術館

〒630-8213
 奈良市登大路町10-6
 TEL：0742-23-3968
 FAX：0742-22-7032



<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

各種SNS掲載中(「奈良県立美術館」で検索)



●近鉄奈良駅(東出口)の徒歩約5分
 ●JR奈良駅(南口)徒歩約15分(東口)下車



大和の国に生きづく 仮面芸能の系譜をたどる

仮面のつながり

わが国は先史時代から仮面に親しんできました。奈良においても、様々な弥生時代の仮面の遺品が出土しています。例えば、桜井市の御向遺跡、大塚遺跡出土の木製仮面。一説では鹿野具を仮面に転用したものと伝わります。田原本町の唐古・鍵遺跡、清水風遺跡からは鳥の面のかぶり物を身につけたシーマーンを描いた土器が発掘されています。弥生時代から仮面を用いた祭祀・芸能が行われていたでしょう。これら考古遺物から仮面の造形のつながり、仮面に込められた人々の祈りを想像します。



桜井遺跡 鳥顔の人物
唐古・鍵遺跡出土
奈良国立博物館蔵

仮面芸能の源流 伎楽



伎楽の衣装
奈良国立博物館蔵
奈良国立博物館蔵

飛鳥時代、日本の仮面芸能の源流となる、伎楽が伝わりました。推古天皇と聖徳太子は、「櫻井」で少年連に伎楽を練習させたといわれています。奈良時代には聖武天皇による東大寺大仏開眼供養会で伎楽が演じられるほど、全国の寺院で隆盛した芸能でした。伎楽は平安時代ごろから次第に崩壊していきませんが、奈良では細々と伝えられていたようです。現存する仮面、復元された装束から幻の芸能の様子を舞臺にたどります。



伎楽の衣装
奈良国立博物館蔵
奈良国立博物館蔵

「聖」なる仮面芸能 雅楽・舞楽

都が平安京に移った後には、国内外各地の歌舞音曲は、宮廷中心にまとめられました。宮廷の祭祀、寺社の祭りで演じられる雅楽の登場です。平安時代に、左方舞人として活躍していた伯耆が、大和にもどり、石清水八幡宮で右方舞を担った大神氏を引き入れて、南都楽所を形成します。現在も奈良の社寺の祭礼では舞楽が奉納されており、南都には雅楽の歴史が刻み込まれています。



舞楽の仮面
奈良国立博物館蔵
奈良国立博物館蔵



舞楽の仮面
奈良国立博物館蔵
奈良国立博物館蔵

まつりといのりの仮面芸能

春日若宮おん祭に見られるように、多種多様な仮面が御事や仏事、祭礼を彩ります。かつて大和で最も盛大だった東大寺八幡宮の祇園会、平船に尊皇をまつる追善会など、奈良の社寺には儀礼に用いられた仮面が残されています。



御事
奈良国立博物館蔵



御事
奈良国立博物館蔵



御事
奈良国立博物館蔵

大和の猿楽

山中の伝統

大和にはかつて「猿」猿楽という神仏事に奉納される芸能が定着していました。室町時代に奈良中西部から観世流(結崎座)が出て、猿楽師による能の水遣り引き上げられ、武家人気の高まりから、次第に猿楽師は活動の中心を能楽に移しました。一方で、奈良盆地を囲む山中では、社寺の祭礼を中心とし、当地の人々によって猿と能が演じ継がれたようです。奈良では現代まで能の仮面芸能が受け継がれ、能狂言に用いられた仮面が残されています。



能の仮面
奈良国立博物館蔵



大和と能楽 金春家と奈良

室町時代、猿楽の源であった観世流(結崎座)の観阿弥・世阿弥、金春兼光(円満井座)の金春春竹は、それまでの能の歌舞や謡に工夫を凝らし、現在につながる能楽を大成します。能楽の大和四座のなかでも、金春家は古くから奈良に根ざし「能」を奉納し、「能」を演じている流儀です。幕末・明治の動乱期には、能楽大成期から伝来する能面、能装束、能楽資料が金春家の手から離れましたが、能楽を愛した奈良の人々の手を経て、現在も大切に受け継がれています。



能楽の仮面
奈良国立博物館蔵



能楽の仮面
奈良国立博物館蔵

特別展 会期中のイベント

特別対談

「まつりといのりの仮面芸能」 -雅楽・舞楽を中心に- (仮)

講師：岡本 彰夫氏 × 小野 真徳氏
日時：10月1日(日)15時～(18時30分開場・約90分)
場所：当館1F展示室(60席・事前申込制)



岡本 彰夫 (1942-2022)
奈良国立大学客員教授・前春日大社事務司
昭和女子大学文学部文化学専攻主任・春日大社に奉職、数々の
古書・古文書・手紙の調査・研究(『奈良の古書』など)
著書に『大和の古書』(『大和の古書』(以上、NHK
出版)、『神代に伝わる古書』(『神代に伝わる古書』(以上、NHK出版))



小野 真徳 (1967-)
浄土真宗本願寺派僧侶・京大文学部博士(文学)
学芸学専攻・天正寺の古書・古文書にも携わる。天正寺の歴史を
研究する『天正寺の歴史』(『天正寺の歴史』(以上、NHK出版))
著書に『天正寺の歴史』(『天正寺の歴史』(以上、NHK出版))

特別公演

「奈良に受け継がれる仮面芸能」 -奈良豆比古神社祇園舞-

演者：奈良豆比古神社祇園舞保存会
日時：10月29日(日)14時～(13時30分開場・約60分)
場所：当館1F展示室(60席・事前申込制・中学生以上)



奈良豆比古神社 祇園舞保存会

1977年設立。1985年4月現在
奈良県奈良市に所在する奈良豆比古
神社では、毎年4月5日の宵宮祭りに
古来の舞(舞臺舞)が奉納され、
奉納される。奈良豆比古神社祇園舞
保存会は神社への奉納活動、また、舞
の保存と発展のために努め、県内外
の祭典イベントに参加している。

当館学芸員による キャリアトーク

日時：10月7日(土)・
11月11日(土)
14時～(展示室(予定))
※上記イベントへの参加には
当日の観覧券が必要です。